

「捕鯨を実行する上での動物福祉」

Egil Ole Øen (野生生物管理サービス)

80 種以上の鯨種と鯨亜種が知られている。クジラは大昔から人類にとって食料源、熱源、その他の必要な自然資源であって来た。ノルウェーでは文書記録には紀元後 890 年に捕鯨に関する記載があり、現在も小規模であるが行われている。狩猟、特に鯨の捕獲に対する人びとの反対は、殺すことそして過剰捕獲によって絶滅の危機においやる可能性と結びついた動物福祉への感情的懸念におもに基づいている。いくつかの鯨種は過去の産業型捕鯨の時期に絶滅寸前までいったが、狩猟で絶滅した鯨種はない。鯨の資源量は増加しており、新たな管理原則は狩猟による過剰捕獲を防いでいる。しかしながら狩猟にまつわる動物福祉問題は決して無視してはならない。殺すことに関係する感情は続くであろうし、真剣に受け止められなければならない。多くの人は、狩猟や捕殺についてよく知らず、鯨に感情移入して、鯨を殺すことを、死の不可避性やその帰結についての自分の知識に結びつけている。1980 年に国際捕鯨委員会 (IWC) は、改良された鯨の捕殺方法を開発するための研究を IWC の加盟国に始めるように奨励した。この研究は日本とノルウェーで始まり、新しいタイプの極超音速爆発爆薬を仕込まれた銜弾の開発を結果した。狩猟具の改善や砲手の集中的な訓練とともに、その新たな爆発弾は動物福祉を大いに改善した。また、グリーンランドとアイスランド、アラスカ、カナダは超音速爆発爆薬が仕込まれた爆発弾を狩猟に導入した。今日、動物福祉を改善するための IWC による新たな取り組みは、おもに北大西洋海洋哺乳類委員会 (NAMMCO) によって続けられている。